

7 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録 （ 要 点 ）

日 時	令和 8 年 7 月 30 日（木）午後 2 時 00 分
場 所	庁舎第 1 別館 3 階 第 2 委員会室
出席委員	教育長 小澤和樹、委員 山本泰正、委員 高橋典子、 委員 長尾正人
会議に出席した 者の職・氏名	副教育長 越智政徳、教育政策局長 青野光尚 学校教育課長 村上才一、生涯学習課長 渡部さおり、 学校給食課長 渡部信一、教育大綱推進課長補佐 本宮靖子、 教育大綱推進課長補佐 松岡敏一
傍聴人	一般 1 名
議 題	1 6 月教育委員会会議録の承認 2 会議録署名委員の指名 3 教育長報告 4 議題 議案第 34 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 議案第 35 号 今治市教育委員会に係る行政手続等における情報通信の技術の利用に関する規則の一部を改正する規則について 議案第 36 号 今治市立視聴覚ライブラリー条例の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について 議案第 37 号 今治市青少年センター条例の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について 議案第 38 号 今治市公民館運営審議会委員の委嘱について 午後 2 時 00 分、開会を宣す。
小澤教育長	日程番号 1、6 月定例教育委員会の会議録を承認してよいか問う。
一各委員一	承認する。
小澤教育長	日程番号 2、会議録の署名委員に、高橋委員、長尾委員を指

	名する。
小澤教育長	日程番号3、教育長報告を行う。
小澤教育長	質疑がないか問う。
小澤教育長	<議題審議> 「議案第34号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」説明を求める。
青野教育政策局長	—「議案第34号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」説明—
小澤教育長	承認してよいか問う。
—各委員—	承認する。
小澤教育長	「議案第35号 今治市教育委員会に係る行政手続等における情報通信の技術の利用に関する規則の一部を改正する規則について」説明を求める。
青野教育政策局長	—「議案第35号 今治市教育委員会に係る行政手続等における情報通信の技術の利用に関する規則の一部を改正する規則について」説明—
小澤教育長	質疑がないか問う。
山本委員	報告書は法の趣旨に沿って適切に作成されており評価できる。しかし、点検・評価の結果が学校現場の改善につながっているかについては、引き続き検証が必要である。 特に小学校英語教育については、学校ごとに取組や成果にばらつきが生じていないか懸念している。学校統合が進む中、教育水準に差があると円滑な指導が難しくなるため、実態把握に努めていただきたい。 今回の評価結果は概ね良好であるが、改善の余地も見受けられることから、継続的な検証と改善をお願いしたい。
長尾委員	山本委員の意見と同様に、自己評価にも学校間の温度差や取組状況の違いが課題として示されていることから、引き続き改

	善に向けた取組を進めていただきたい。 また、報告書の表記について、標記の修正を3か所お願いする。
高橋委員	標記の修正をお願いします。 イングリッシュデイキャンプを見学したところ、ALTが意欲的に準備・運営を行い、子どもたちも楽しみながら英語に親しんでいたことから、大変有意義な取組であると感じた。 一方で、ゲーム中心の活動に加え、少人数の利点を生かした英語での意見交換やALTへのインタビューなど、より実践的な英語体験を充実させることも重要であるとする。 また、現場の教員にも可能な範囲で参加・見学してもらい、活動の様子を共有することで授業改善にもつながると考える。 今後も継続・発展させていきたい。
小澤教育長	承認してよいか問う。
—各委員—	承認する。
小澤教育長	「議案第36号 今治市立視聴覚ライブラリー条例の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について」及び「議案第37号 今治市青少年センター条例の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について」説明を求める。
渡部生涯学習課長	—「議案第36号 今治市立視聴覚ライブラリー条例の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について」及び「議案第37号 今治市青少年センター条例の一部を改正する条例制定に係る意見聴取について」説明—
小澤教育長	承認してよいか問う。
—各委員—	承認する。
小澤教育長	「議案第38号 今治市公民館運営審議会委員の委嘱について」説明を求める。
渡部生涯学習課長	—「議案第38号 今治市公民館運営審議会委員の委嘱について」説明—

小澤教育長	承認してよいか問う。
ー各委員ー	承認する。
小澤教育長	その他の意見及び質問の有無を確認。
山本委員	鴨部小学校の授業を参観し、学校運営や授業に対する教職員の熱意と高い指導力を実感した。 また、細田氏の講演会を通じて、英語教育の推進には学校だけでなく、行政、家庭、地域、教員 OB などが一体となって取り組むことが重要であると感じた。特に、専門的知見を持つ人材や地域人材の協力を得ることは大きな力になると考える。 さらに、教育 DX や ICT 環境整備、AI を活用した個別最適な学びの推進も重要であり、そのための基盤整備を進める必要がある。今後は、家庭・学校・地域が連携しながら、地域全体で子どもたちを育てる取組を進めていくことが大切である。
高橋委員	細田氏の講演会に参加し、英語教育を通して世界を見る子どもを育てるという考えに共感した。その実現のためには、行政、学校、地域が一体となった「オール今治」での取組が重要であると感じた。 また、細田氏の豊富な知見や経験を今治市の英語教育に生かすとともに、国際交流協会や地域住民など、英語教育を支援できる人材の力を活用する仕組みづくりが必要である。市民の協力を得ながら英語教育を充実させていくことが重要である。
山本委員	英語教育のみを重視するのではなく、STEAM 教育や Society5.0 時代を見据え、国語や算数などの基礎基本とのバランスを図ることが重要であり、その実現のためには ICT の活用による業務効率化や教員の働き方改革が必要であると考えます。
長尾委員	7 月 15 日に開催された愛媛県市町教育委員会連合会総会に出席した。その際、東温市の上林小学校の児童が地域の名所や特色について発表する機会があり、ふるさとキャリア教育の重要性を改めて実感した。 子どもたちが自分の地域について学び、その魅力を自分の言葉で語れることは大変意義のあることであり、さらに英語で発信できる力を身に付けることも重要であると考えます。 また、ふるさとへの愛着を育むことで、将来的に地域の発展に貢献しようとする人材の育成にもつながると思われる。そのため、ふ

るさとキャリア教育を小学校から中学校まで継続的に推進していただきたい。

加えて、学校によって取組状況にばらつきが見られるとの評価もあることから、市内全ての小・中学校で充実した取組が行われるよう努めていただきたい。

高橋委員

中央図書館の夏休み課題学習支援事業に参加し、学校によって読書感想文等の取組に差が見られることを感じた。英語教育など新たな施策の推進は重要である一方で、「読む・書く・計算する」といった基礎学力の定着は教育の根幹である。

また、家庭学習習慣や基礎学力の定着には家庭環境の影響も大きいことから、教育の基礎基本を保障する今治市の教育の在り方について引き続き考えていく必要がある。

小澤教育長

各委員の意見は、現在推進している「ふるさとキャリア教育」の考え方につながるものである。家庭・地域・学校の信頼関係のもとで子どもを育てることが、健全育成や学力向上の基盤となる。

また、英語教育については国語や算数などの基礎基本を大切にしながら進めるとともに、教員 OB や地域人材の協力を得ることが重要である。今後も多様な人材の力を活用しながら、子どもたちの学習意欲や自己肯定感、地域への愛着の向上につながる教育の充実に努めていきたい。

午後 3 時 2 分、閉会を宣す。